

# グラフで見るインド経済 2022年9月号(No. 153)

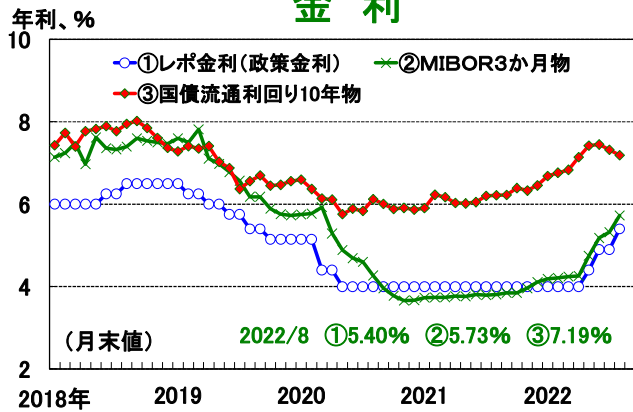
2022年4～6月期のインドの実質GDP(国内総生産)は前年比+13.5%と前期(同+4.1%)に比べて成長率が大幅に上昇した。内訳をみると、政府支出が弱含んだものの、個人消費と総固定資本形成が大きく改善した。直近の月次指標をみると、7月の新車販売台数は前年比+11.1%と高い伸びが続いており、個人消費は堅調に推移している。もっとも、企業部門には、一部に改善の動きが鈍化する兆しがみられる。7月の輸出は前年比+2.1%と前月の伸びを大きく下回り、同月のコア産業生産指数も同+4.5%と2か月連続で増勢が縮小した。

### 【足元の景気判断】

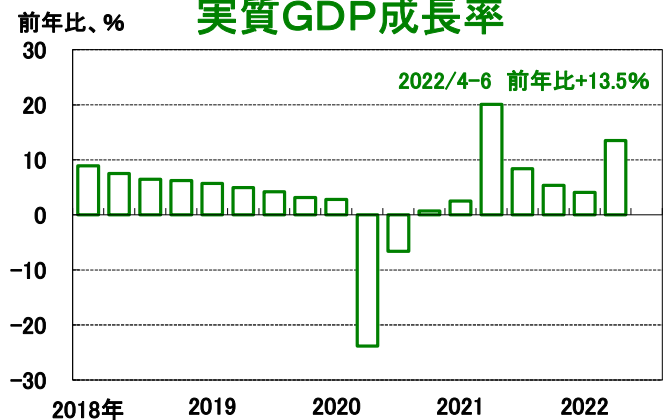
| 指標   | 景気全般 | 輸出 | 新車販売 | コア産業生産 | 製造業PMI |
|------|------|----|------|--------|--------|
| 判断結果 | ↑    | ↓  | ↑    | →      | ↑      |

(注) 矢印は概ね3か月前との比較。青の矢印は改善を、赤の矢印は悪化を、白の矢印は横ばいを表している。

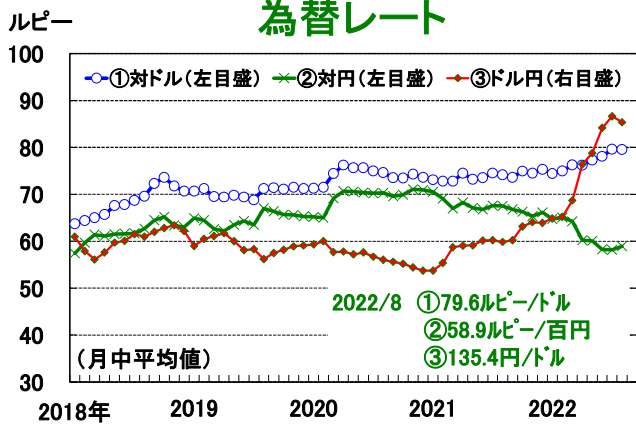
## 金利



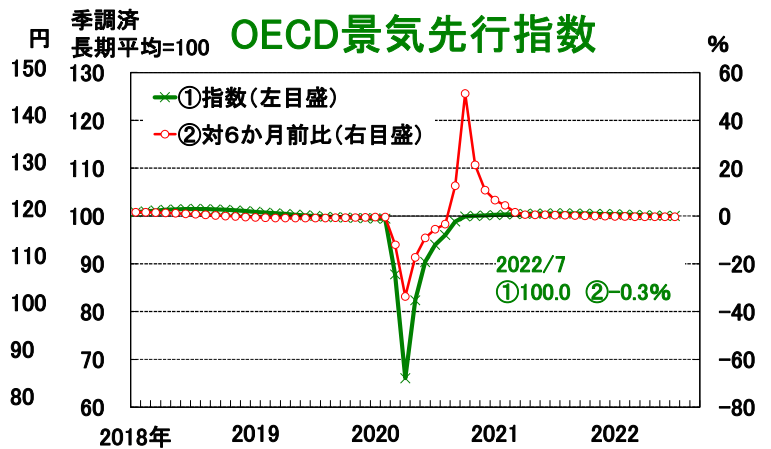
## 実質GDP成長率



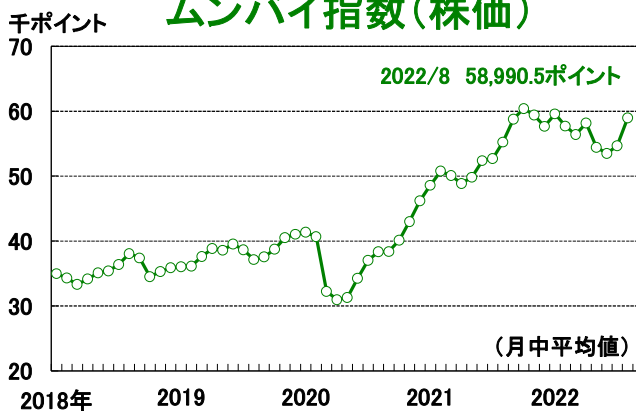
## 為替レート



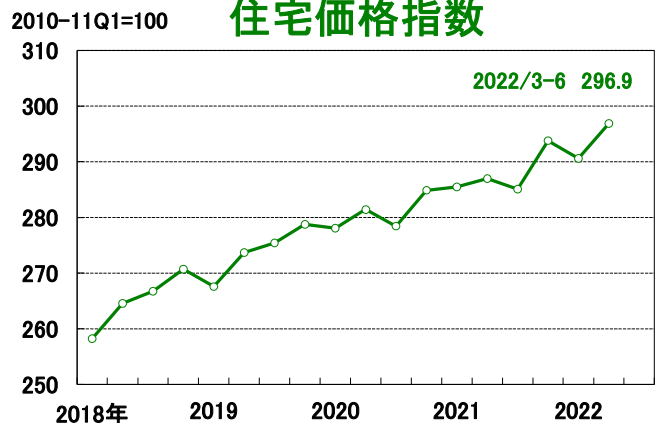
## OECD景気先行指数



## ムンバイ指数(株価)



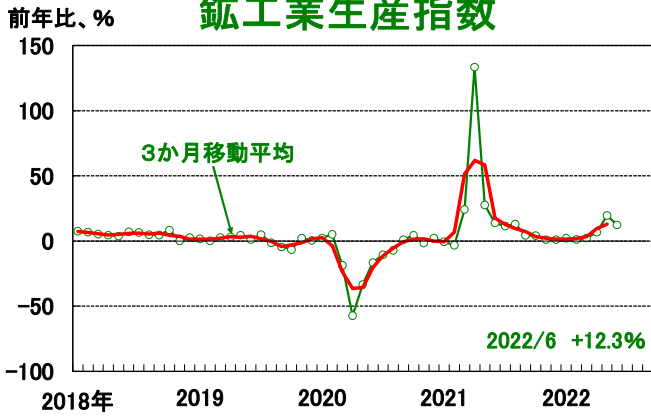
## 住宅価格指数



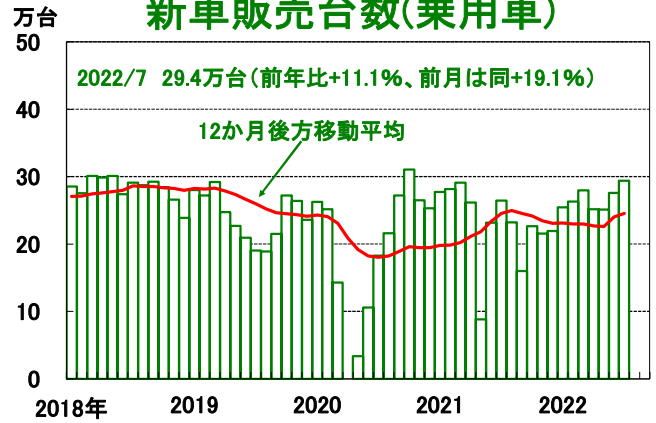
(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。

### 鉱工業生産指数



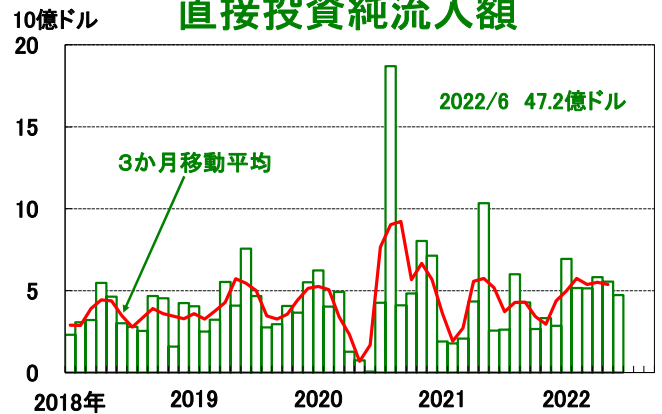
### 新車販売台数(乗用車)



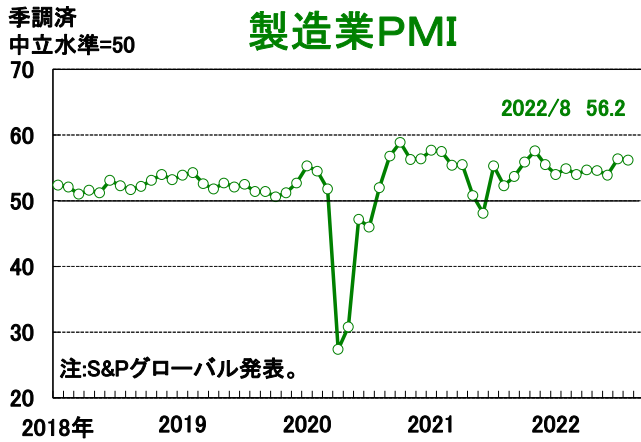
### コア産業生産指数



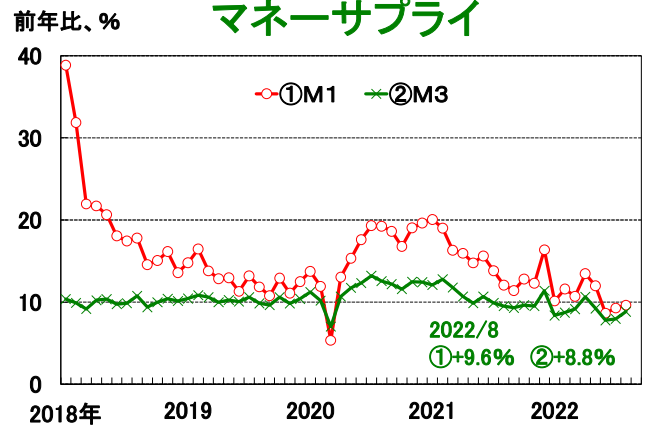
### 直接投資純流入額



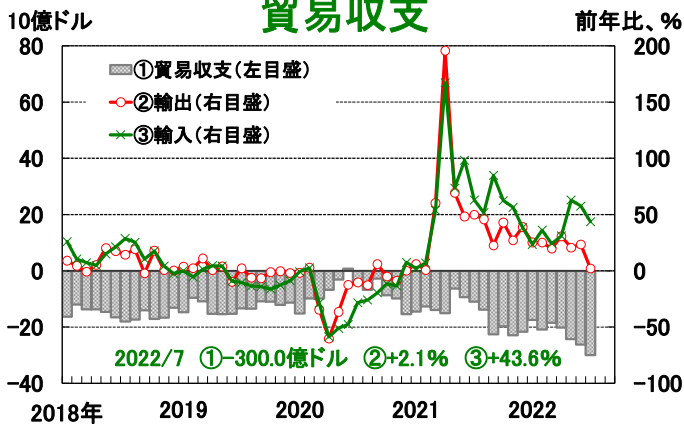
### 製造業PMI



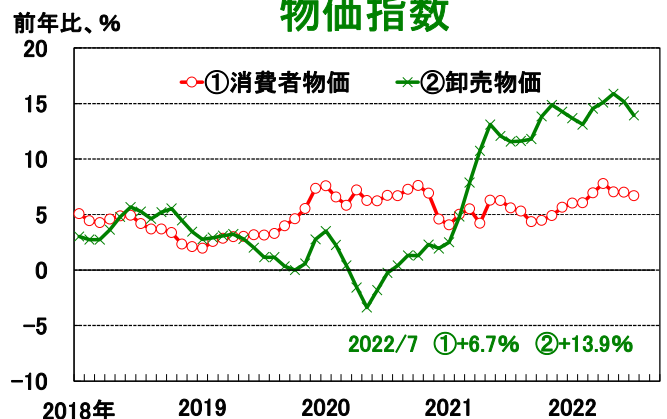
### マネーサプライ



### 貿易収支



### 物価指数



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。